

広報 やいづ

今号の主な内容

- ▶『もしも』に備えるやいづ
- ▶【公助】国・県・市の幅広い対策
- ▶【共助】近所で、地域で、協力を
- ▶【自助】備えを充実させて、心にゆとりを
- ▶能登半島への職員被災地支援

保存版

防災 特集号

 令和6年
6月15日号

発生が懸念されている大規模地震「南海トラフ地震」。

この地震の発生に伴い、関東から四国・九州にかけて甚大な被害が生じる恐れがあり、焼津市でも、最大で震度7を観測すると想定されています。

本紙は、大規模地震に備える重要情報をまとめた保存版の特別号です。いざという時の備えを確認しましょう。

命を守る一人一人の備え

自助



共助



大切な地域の助け合い

公助



行政の支援

市政情報のほか、緊急情報やイベント情報などを発信します ▶

ホームページ



facebook



LINE



Instagram



■編集・発行 焼津市行政経営部シティセールス課 ☎425-8502 静岡県焼津市本町2丁目16番32号 ☎054-626-1111(代) 🌐<https://www.city.yaizu.lg.jp/>

■人口と世帯数 13万5,684人 6万376世帯(令和6年4月末現在)

広報やいづは、再生紙を使用しています。読みやすいユニバーサルフォントを採用しています。



南海トラフ地震
想定震源域

南海トラフ地震で
大きな被害が見込まれる地域

『もしも』に備えるやいづ

静岡県と焼津市では、東海地震説が語られはじめた 1976 年頃から約 50 年間、ハード・ソフトの両面から、大規模地震に備えてさまざまな対策を行ってきました。

災害時には、国や地方公共団体による「公助」だけでなく、地域や身近にいる人で助け合う「共助」、そして一人一人が取り組む「自助」の 3 つが連携することで被害を軽減できます。

いつ起こるかわからないもしもの時に、自身や家族を守りましょう。

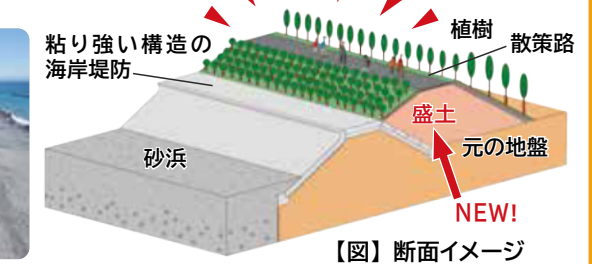
問合先 ● 防災計画課 ☎625-0128 ● 地域防災課 ☎623-2554

国・県・市の幅広い対策

公助

潮風グリーンウォーク

令和7年度
完成予定



粘り強い構造の
海岸堤防

植樹 散策路

盛土
元的地盤

NEW!

【図】断面イメージ

海岸線の堤防を粘り強い構造に補強し、堤防よりもさらに 2 倍高い盛土を整備することで、市街地への浸水被害を軽減します。また、盛土に植栽し散策路を整備することで親しまれる施設となるよう工事を進めており、橋山川から吉永放水路までの区間が完成しています。

現在、大井川港海岸（利右衛門地区）の整備を行っています。

詳しくはこちら

配水池の耐震対策 100%



杵宜島配水場

配水池の耐震化

市内の配水池の耐震対策は 100% となっています。

また、配水池の出口に設置された緊急遮断弁により、大規模な地震で破損した水道管から水道水の流出を防いで非常用水を確保します。

水道管の耐震化

大きな地震が起こった場合でも、安全な水道水を届けることができるように、主要な管路である「基幹管路」を優先して耐震性の高い水道管への更新を進めています（下記事を参照）。



水道管更新工事の様子

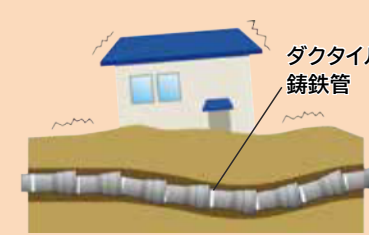
どうして水道管の「基幹管路」を優先して耐震工事をするの？

この管路を耐震化することで、災害が起きた時でも水源（井戸）の水を取り入れて、安定的に水道水を送ることができるよ。

基幹管路とは、水源（井戸）から配水池までの管路や、配水池から多くの水を送りだす重要な管路である大きな口径の水道管（直径 40 ㍓以上）のことだよ。

焼津市では、ほとんどの基幹管路に耐久性の高い「ダクトイル鉄管」が使われているよ！

地震で地盤が揺れても、管の継手部が柔軟に動く伸縮性と離脱防止機能を備えた耐震型の「ダクトイル鉄管」へ計画的に更新しているよ。



ダクトイル鉄管

一歩先の公助

焼津市では、風水害の激甚化や猛暑など、さまざまな災害への対策も進めているよ！



流域治水プロジェクト事業

小石川遊水地の整備

台風などの大雨による小石川流域の浸水被害を軽減させるため、遊水地の整備を進めます。

小石川が増水したときは、遊水地となる小屋敷環境管理センター広場に、約 4,000 ㎡の川の水をためます。



小石川 排水 遊水地 取水

小石川遊水地（完成イメージ）

豊田地域交流センター地下貯留施設の建設

豊田地域交流センター駐車場の地下に、約 1,000 ㎡の雨水をためる施設を建設し、小石川流域の浸水被害を軽減させます。



雨水などが地下に流れる 駐車場 地下貯留施設

地下貯留施設（完成イメージ）

雨水貯留浸透施設の設置補助

大雨による浸水被害を軽減するために、各家庭などに対し、雨水をためるタンクや地下に浸透させるための設置費用の一部を補助します。



雨水貯留タンク 雨どい

詳しくはこちら

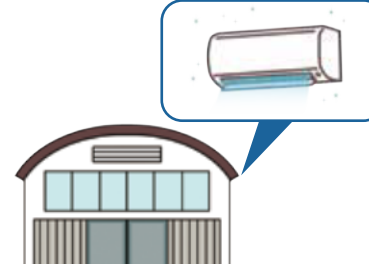
その他の取り組み

石脇川・小石川・前の川流域において、公共施設を活用した雨水貯留施設の計画的な整備に取り組んでいます。

猛暑災害対策事業

小・中学校体育館へのエアコン設置

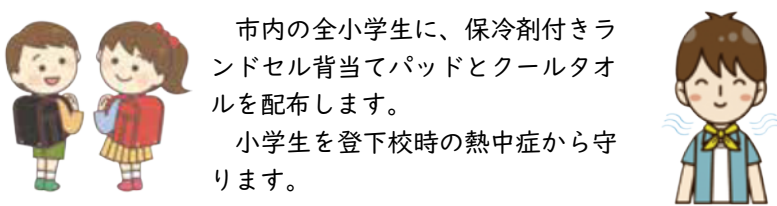
児童・生徒の熱中症による健康被害を防ぐとともに、災害発生時の避難所として市民の避難生活における健康を守るため、市内全小中学校の体育館にエアコン設置を進めています。



小学生の登下校時の熱中症対策

市内の全小学生に、保冷剤付きランドセル背当てパッドとクールタオルを配布します。

小学生を登下校時の熱中症から守ります。



熱中症予防のための啓発活動

熱中症予防の啓発のため、高齢者や障害者などへ、ネッククーラーを配布します。



暑さをしのぐ場として、公共施設や民間施設を活用した、指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）『まちなか涼みどころ』を開放しています。



詳しくはこちら

高齢者や障害者世帯へのエアコン設置支援

使用できるエアコンが 1 台もない、非課税世帯の高齢者や障害者世帯へエアコンの設置費用を補助します。

※詳しくは市ホームページを確認するか、地域包括ケア推進課（☎626-1117）か障害福祉課（☎626-1127）へ問い合わせてください。



詳しくはこちら

情報入手方法の準備を

災害時には、最新の情報に基づいて行動することが重要です。

情報を早く入手できるように今のうちから準備をしておきましょう。

事前登録で便利に！

■やいづ防災メール

災害に関する情報を迅速・適切に提供するサービスです。



防災メール

■焼津市公式 LINE

焼津市に関するさまざまな情報をお届けしている市公式の LINE アカウントです。



市公式 LINE

■静岡県防災アプリ

静岡県による実災害時も日頃も便利なアプリです。



県防災アプリ

同報無線の放送内容もメールと LINE で受信できるよ



緊急

テレビの d ボタンも活用！

災害情報は、テレビやラジオからも入手できます。

特にテレビリモコンの「d ボタン」からは、テレビのデータ放送で地域の災害に関するさまざまな情報が確認できます。



d ボタンの例

防災ポータルサイト

現在発表中の気象情報や市が発令している避難情報などをリアルタイムに確認できます。

また、避難所開設状況などを地図上で分かりやすく確認できます。



防災ポータルサイト

共助

～共に助け合う～

近所で、地域で、協力しましょう



地域の防災訓練の日を知りたいわ。

8月・12月・3月の年3回開催しているよ。
地域の回覧板や市ホームページ、広報やいづ
などでお知らせしているから確認してね。

親子サークルなどで、防災の勉強をしたいけ
れど、お願いできる場所はあるの？

焼津市の防災部では、出前講座を実施しているよ。
消防防災センターの防災学習室「しえ～る」でも、地震体験
や風水害体験ができるから、訪れてみるのもいいね。

防災訓練で地域防災力を強化

市では、市内一斉開催の市民参加型
防災訓練を年3回実施しています（右
表1）。
いつ発生するかわからない地震に備
え、季節や時間帯、テーマを変えた実
践的な訓練を行うことで、市全体の防
災力の向上を図っています。



詳しくはこちら



【表1】市内で実施している防災訓練

訓練名	開催時期
総合防災訓練	8月の最終土曜日
地域防災訓練	12月の第1日曜日
災害時初動訓練	3月の第1日曜日

【表2】防災訓練で行われるさまざまな訓練

訓練の内容	訓練の趣旨
避難訓練	津波や倒壊家屋から命を守る
安否確認訓練	地域住民の安否確認を通して、救助が 必要な人を把握し、救助活動につなげる
避難所開設・ 運営訓練	避難所生活のイメージを共有し、運営 に向けて備える
消火訓練	消火器の使い方を習得する
炊き出し訓練	非常食の炊き出し方法を習得する

訓練の様子

各自主防災会が計画した、各地域の特
性に合わせた訓練が実施されています
（右表2）。大規模地震発生後は、地域で
助け合うことが重要です。日頃から訓練
に参加し、災害に備えましょう。



市民防災リーダー育成講座

災害に備えて地域でご
活躍いただく「防災リー
ダー」を育成するための
市民向けの講座です。
これまでに1,500人以上の皆さんが受講
し、地域の防災活動をけん引しています。

知識や技術を
地域に役立てよう

対象 市内在住ま
たは市内在勤の人

開催日 7月～8月の土曜日（全3回）

開催時間 各回3時間程度

会場 消防防災センター

※今年度の講座について、詳し
くは市ホームページを確認す
るか、問い合わせください。市ホームページ



市ホームページ

出前講座

防災部職員が、市内へ出張
し、防災知識や災害に対する
備えなどについてお話しす。
お気軽にご相談ください。

講座の概要

対象 自主防災会、事業所、学校や地域コミュ
ニティ団体など

主な講座メニュー

- ・災害への家庭内対策
- ・避難所の開設運営
- ・避難所運営ゲーム（HUG）
- ・地震体験車
- ・AEDの取り扱い講習
- ・負傷者の搬送方法
- ・被災地での支援活動紹介
- ・風水害への備え など



市ホームページ

防災学習室「しえ～る」

防災学習室「しえ～る」
は、地震体験や風水害
体験をはじめ、気軽に
防災学習ができる施設
です。



施設の概要

開館時間 9:00～17:00
休館日 年末年始
場所 消防防災センター1階
入場無料



詳しくはこちら

自主防救助隊訓練

大規模地震後に円滑な救
出・救助活動が行われるよ
うに、市内自主防災会には
それぞれ「自主防救助隊」
が設置されています。



自主防救助隊の
紹介動画

訓練の様子

自主防救助隊訓練は、自主防救助隊員が、
救出・救助のための技術習得する機会とし
て、年2回実施しています。



チェーンソー
取り扱い訓練

倒壊家屋からの
救出訓練

消防団活動

消防団は、火災や大規模災
害が発生した時、職場や自
宅から現場へ駆けつけ、消
火や救援活動などを行う市町
村の非常備の消防機関です。



詳しくはこちら

平時時は、地域の防災リー
ダーとして防災訓練での指導のほか、応急手当
講習や火災予防活動など、地域住民の安全安
心を守る重要な役割を担っています。

市内では555人の消防団員
が地域の安全を守っています。



マスコットキャラクター
「火ノ用ココロ」
© 瀬戸ロみつき

自助

～自分の命は自ら守る～

備えを充実させて、 心にゆとりを

過去の被災地では、トイレ問題が話題になっていたよね。
やっぱりわが家でも備蓄しておいたほうがいいのかな？



大地震後はトイレ使用注意！



大地震が起きた後は、
トイレの点検をするま
で、水洗トイレの使用
は控えましょう。
いつもと変わらないよ
うに見えても、排水管や
浄化槽が破損している可能性があります。
大地震後のトイレは、市ホームページで
下水の利用に制限がかかっていないこと
や、排水管や浄化槽に問題がないことを確
認した上で使いましょう。

絶対必要なトイレ対策

トイレを我慢するスト
レスと不安感が重なるこ
とも。
災害時に自身と家族の健
康を守るためにも、「携帯ト
イレ」や「簡易トイレ」を備蓄
しておきましょう。トイレが使用できない時でも
自宅用を足すことができるようになります。

携帯トイレ

便器や簡易トイレ
に取り付けて使う、
袋と凝固剤・給水シー
トがそろったもの。

簡易トイレ

便器が使えないとき
のための、便座付きの
小型トイレ。携帯トイレ
も合わせて備蓄が必要。

除菌用品・トイレトーパー

手を洗えない時のた
めに、除菌・消毒用品
やトイレトーパーも
備蓄しておきましょう。

災害後、トイレ使用可否の判断方法

戸別の浄化槽

漏電がないか、プロアが正常に稼働しているか、汚水漏れ
がないかなどを確認してから利用を再開してください。

公共下水

市ホームページや市公式LINEなど
で利用再開をお知らせします。



参考になるよ！
国土交通省
災害時トイレ
パンフレット



災害直後の生活のために、非常持出品・備蓄品が重要だと聞いたことがあるけれど…。
どんなものを用意したらいいかしら？ どこで買えばいいの？

非常持出品と備蓄品

災害用の備蓄には、「非常
持出品」と「備蓄品」の2種
類があります。

非常持出品

発災直後に避難場所へ避難する時に持って
行く、発災後3日分の備え。日頃は非常持出
袋に詰めて、持ち出しやすい場所に置いてお
きましょう。常に必要なものや避難場所での
暑さ・寒さ・雨風対策、避難のための明かり
の確保などを考えて、発災直後に困らないよ
うにそろえましょう。

備蓄品

発災後約1週間、自宅や避難所で生活する
ための備え。家屋が被災しても、取り出しや
すい場所に保管しましょう。



元気をつなぐ水とごはん

どんな時でも、水と
食べ物は体力の資本で
す。調理せずに食べら
れる非常食を3日分と
調理して食べる非常食
を4日分、合わせて最
低計7日分の家族の食
料と水を備蓄しておき
ましょう。



備蓄のこつは、普段食べている缶詰やレトルト
食品を多めに買っておくこと。食べたならその分を
補充することで、常に備蓄することができます。

家族に合わせた備蓄が大事

備蓄で重要なのは、家族に合
ったものを用意することです。
例えば、子育て世帯では離乳
食や液体ミルク、高齢者世帯で
はやわらかい食品、アレルギーがある人はア
レルギー対応のものなど、災害時に必要とな
るものは、各家庭で異なり
ます。それぞれの家庭で必
要なものを、優先順を決め
て備蓄することが大切です。



身近なお店でそろえよう！備蓄品

【表】備蓄品の主な販売場所

そろえておきたい備蓄品	主な販売場所
携帯トイレ・衛生用品など	ドラッグストア
非常食・備蓄水など	スーパーマーケット
ヘルメットやテントなどの雑貨類	アウトドア用品店
ラジオやモバイルバッテリーなど	家電量販店

備蓄品は身近なお店でも
取り扱っているほか、イン
ターネット通販などでも購
入できます（右表）。
いざという時に備え、用
意しておきましょう。



【備蓄の目安】
〈食料〉1日3回×家族の人数×7日
〈飲料水〉1日3回×家族の人数×7日

自助

～自分の命は自ら守る～

被害を抑えるために「備え」が重要

自宅を守る備えには何があるのだろう？

東海地震による被害を減らす（倒壊ゼロ）ため、国や県とともに進めている事業です。昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅を対象とし、耐震診断や耐震補強への補助金交付のほか、各種事業を実施しています。

詳しくはこちら

住み続けられるわが家に

耐震診断で自宅の強さをチェック

【防災メモ】

市内住宅の耐震化率

94%

昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅に住んでいる人を対象に、無料で専門家による耐震診断を実施しています。地震発生後の家屋倒壊を予防するために、自宅の耐震強度を確認しましょう。

※住宅の耐震補強工事に対する補助金制度があります。まずは建築住宅課（☎626-2169）にご相談ください。

※「無料耐震診断」は今年度で、「耐震補強工事補助」は令和 7 年度で終了予定です。

STEP 1

STEP 2

STEP 3

建築住宅課に電話で依頼

専門家による無料耐震診断

耐震補強工事

「TOUKAI-0」って何？

東海地震による被害を減らす（倒壊ゼロ）ため、国や県とともに進めている事業です。昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅を対象とし、耐震診断や耐震補強への補助金交付のほか、各種事業を実施しています。

詳しくはこちら

耐震シェルターや防災ベッドで命を守る

住宅全体の耐震補強が困難な場合でも、耐震シェルターや防災ベッドを設置することで、命を守ることができます。

※設置に対する補助金制度があります。まずは建築住宅課（☎626-2169）にご相談ください。

よくいる場所や無防備な睡眠中の安心度がアップ！

市ホームページ

家具の固定や感震ブレーカーで安心度アップ

家具を固定したり、窓ガラスへ飛散防止フィルムを貼付したりすることで、自宅内の安全対策を強化しましょう。

また、災害時、電気の供給が再開されたときに起きる火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効です。

※設置に対する補助金制度があります。詳しくは市ホームページを確認するか、地域防災課（☎623-2554）へ問い合わせてください。

市ホームページ

地震発生から避難までの流れ

地震が起きたら、どんな流れで行動するか、おさらいしよう！

沿岸部

内陸部

●0分～数分後

地震発生中⇒揺れがおさまる

揺れがおさまったら、ガスや火を止め、安全を確保

安全確保・避難経路の確保

避難行動

非常持出品を持って

避難場所（公園や広場、学校のグラウンドなど）に避難し、安全が確認できるまで待機

津波の到来に備えて直ちに海から離れ、高い避難場所に避難を

大津波警報・津波警報などが解除され、安全が確認できるまで待機

津波避難タワーで長時間待機することを考えて、非常持出品の用意を

車での避難は、交通事故や渋滞などのトラブルにつながる可能性も。車を置いて避難する場合は、車を路肩に寄せ、鍵を付けたままにしましょう

建物や近所の人と声をかけ合って避難しましょう

建物の出入口などの避難経路を確保しましょう

●数分後～数十分

できるだけ早く

●津波警報発令中

このページの問合せ先

■TOUKAI-0、耐震診断、耐震シェルター・防災ベッド設置補助金 建築住宅課 ☎626-2169

■家具固定・感震ブレーカー設置補助金 地域防災課 ☎623-2554

身の回りでどんな災害が起きるのかしら？

「地震」と「大雨」では避難行動が違うんだってね。

ハザードマップ

日頃から確認して、災害に備えよう！

市では、災害に備えるために、「防災地図」と「洪水ハザードマップ」に分けて、浸水想定や避難する場所などの重要な情報を公表しています。

身の回りでどんな災害が起きるのか、確認しておきましょう。

防災地図と洪水ハザードマップは、市役所本庁舎や消防防災センターの窓口、市ホームページで確認することができます。

地震・津波

洪水ハザードマップ

水害・土砂災害

防災地図

洪水ハザードマップ

わたしの避難計画

「わたしの避難計画」は、想定される自然災害（地震、津波、風水害、土砂災害）に備えて、「どのタイミングで」「どこに」を事前に整理したものです。日頃は目に着くところに貼っておき、いざというときの避難に役立てましょう。

消防防災センターの窓口や市ホームページで確認することができます。

災害時に慌てることなく、すぐ避難

わたしの避難計画

わが家の安否確認カード

市が作成した、地域での安否確認のためのカードです。自治会・町内会を通して、回覧板などで配布しています。災害時に安否が分からない人がいた場合、救助・捜索活動や、身元不明の人との照会の重要な手掛かりとなります。

■安否確認の重要性

安否確認ができると、不要な捜索・救助活動が減り、本当に助けが必要な人を素早く救助できるようになります。平常時に書ける欄を記入し、いざという時に備えましょう。

■防災訓練における活用

実災害で使うことが前提のカードですが、防災訓練でも活用し、使用方法の周知に努めています。訓練時には、「安否確認できた人」を地域で集計し市へ報告することで、情報伝達の訓練としています。災害時の緊急救助要請や報告につながる重要な訓練です。

わが家の安否確認カード

用語解説

■安否確認場所

大規模災害の後、住民の安否を確認するための場所として、各自主防災会で決められています。地域で確認しましょう。

■津波避難場所

大きな地震の後には、海岸から離れて、可能な限り高い場所や近くの高台や津波避難タワー・津波避難ビルなどに避難しましょう。近くにどのような施設があるか、日頃から把握しておく必要があります。

津波警報解除など安全が確保されたら

救出救助活動

自宅の確認

避難生活

地域の安否確認場所「安否確認」

地域で協力し、捜索や救出救助活動を実施するとともに、自主防災会は、地域内の被害状況や安否情報を市に報告

地域ごとに決まっている安否確認場所で「わが家の安否確認カード」を提出し、家族の安否を報告

救出活動や情報共有

安否不明の家族の詳細を伝えることで、その後の救助・捜索活動がスムーズに進むことがあります

自宅の被災状況を確認

自宅に帰り、自宅が住める状態かどうかを判断する※写真に残すことを推奨。

自宅に住める

自宅に住めない

①在宅避難

住み慣れた家でプライバシーも守られる安心生活

②縁故先・親戚避難

親戚・知人宅に避難可能な場合

③避難所

被災で生活場所を失った人が、一時的に生活する場所

8を参照

行政は順次、住家被害認定調査や応急危険度判定を行います

このページの問合せ先

■防災地図・わたしの避難計画 防災計画課 ☎625-0128

■洪水ハザードマップ 河川課 ☎626-1118

■わが家の安否確認カード 地域防災課 ☎623-2554

焼津から能登半島へ

継続中

令和6年能登半島地震

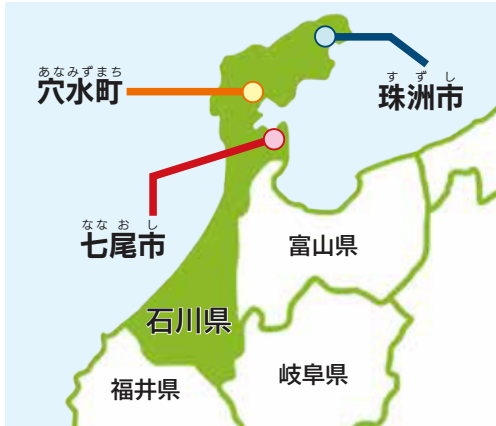
職員の被災地支援

市では、「令和6年能登半島地震」の被災地支援として、県や県内各市町と連携して、石川県穴水町をはじめとする被災市町へ、被災建築物応急危険度判定や給水活動支援、避難所運営などの各種災害対応に職員派遣を行いました。
 現在は、中・長期の支援活動を行っています。引き続き、一日も早い被災地の復旧・復興に向けた支援を行ってまいります。

職員の
派遣実績
(6月15日時点)

市職員・志太消防本部職員など
のべ140人以上を派遣

【主な派遣先】



詳しくはこちら

職員の派遣レポート

被災建築物の応急危険度判定

活動内容

人命に関わる二次災害防止のため、被災建築物の倒壊などの危険性を判定し、判定ステッカーで住民などへ結果を周知しました。

印象に残ったこと

古い木造住宅が多く、調査した半数以上の建物が、最も悪い評価となる「危険」と判定されるほどの被害を受けていました。耐震対策の重要性を改めて痛感しました。

今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

被災後、できる限り迅速に応急危険度判定を実施し完了することが重要であるため、焼津市における震前対策を練っていきたいです。



避難所の運営支援業務

活動内容

避難所に常駐し、物資や災害医療支援（DMAT）などの支援受け入れや避難者の入退所管理など、避難所生活が滞りなく送れるよう幅広く支援を行いました。

印象に残ったこと

避難所生活が、避難者同士の協力のもと自主的に行われていたことです。その他、地域コミュニティの意義や「自助」・「共助」・「公助」の重要性を実感しました。

今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

被災者支援に限らず、支援を必要とする人の気持ちに寄り添った対応を日頃から心掛けたいと思いました。
 また、災害に備え、防災知識や対応力の向上に努めていきたいです。



応急給水活動

活動内容

石川県七尾市と珠洲市で、給水車による応急給水活動を実施しました。

印象に残ったこと

お茶などの小さいペットボトルを利用して水を汲む人が多かったので、各家庭で災害用に持ち運びのしやすい容器の準備が必要と感じました。

今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

発災後は全国から給水車が集まる想定です。効率良く給水活動が行えるよう、支援の受け入れ体制づくりに今回の経験を生かしたいです。



住家被害の認定調査

活動内容

住家被害を受けた被災者が各種支援金などを申請する際に必要な「り災証明書」の発行に向けて、住家の被害程度の認定調査を実施しました。

印象に残ったこと

専用アプリが入ったタブレットを用いて調査を実施したため、経験の少ない職員でも1棟当たりの調査を迅速かつ正確に実施できたことです。

今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

南海トラフ巨大地震などに備え、平時から災害時における調査体制や職員の知識向上など改めて見直していきたいです。



上水道管応急復旧（漏水調査）

活動内容

石川県珠洲市で漏水発見機や音聴棒を使用して上水道管の漏水調査を実施しました。

今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

日頃より水道管網情報などを正確に把握し、発災時の迅速な復旧活動に生かしたいです。



緊急消防援助隊

志太
消防本部



活動内容

石川県珠洲市へ、消防・救助・救急・支援の4隊を、1月1日から21日まで交代で延べ93人派遣しました。
 行方不明者の捜索や被災者の救急搬送を行いました。

災害医療支援

DMAT
派遣



活動内容

焼津市立総合病院より医師・看護師などを派遣し、石川県内の病院や特別養護老人ホームなどでトリアージをはじめとする災害医療支援活動を実施しました。その他、避難所で避難者の診療を行いました。

派遣職員の1日の活動スケジュール（例）

派遣職員は、移動時間も含め、一日約13時間に及ぶ支援活動を行い、被災地の復興に取り組みました。

